



総会・公開セミナー／	
第8回年次大会の開催	1
第19回事例研究会①	2
第19回事例研究会②	3
第20回事例研究会①	4
第20回事例研究会②	5
組織及び役員一覧・事務局だより	6

環境福祉学会 事務局 株式会社環境新聞社事業部内  
〒160-0004 東京都新宿区四谷3-1-3 第1富澤ビル  
TEL. 03-3359-5349 / FAX. 03-3359-7250  
<http://www.kankyofukushi.jp/>  
E-mail: info@kankyofukushi.jp

## 総会・公開セミナーは6/3（日）東京で開催

平成24年度環境福祉学会総会及び公開セミナーは、6月3日（日）に東京新宿区に家の光会館・飯田橋レインボービルで開催しますので、皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成24年6月3日（日）14:00～16:30

会場：家の光会館・飯田橋レインボービルC会議室  
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町11番地（飯田橋駅徒歩約5分）

<2012年総会> 13:00～13:45

<公開セミナー> 14:00～16:00

テーマ：「東日本大震災から復興を環境福祉から考える」

演題① 「新たな「子どもへのまなざし」の創設を目指して」

※震災で喪失体験に遭った子どもを中長期的にケアするための「グリーンケア事業」について (仮)

朝日新聞厚生文化事業団事業部長 福田年之氏

演題② 「被災地福島で安全な果菜類（トマト）の栽培と陸前高田における緑のカーテンの設置活動について」 (仮)

獨協医科大学名誉教授／環境福祉学会監事 永井伸一氏

## 第8回年次大会は、11/18（日）に岡山・倉敷にて開催

今年の第8回年次大会ですが、平成17年9月に第1回の年次大会を開催しました岡山県倉敷市内の川崎医療福祉大学で11月18日（日）に「少子高齢社会の環境福祉」をテーマに開催する予定です。

会員の皆様のご参加と研究発表にお申込み頂きたくお願い申し上げます。



## 「医療施設における緑の景観」

株式会社日比谷アメニス  
水野 妙子 氏

私が実際に計画した内容とどういふふうを考え整理して計画していったのかということをお話します。

1は精神風土の心象風景に対する植物、植物を使った景観ということです。2は人生の四季と日本の四季との特徴と関係性です。それから3は命育の概念です。これは完全に私がこじつけでつくったものです。それから4に心と身体を結ぶ景観です。

まずは、高齢者の病院と癌研究会病院の事例です。「緑の建築へ」ということで、安らぎと優しさと楽しさというものを植物の中に求めながら、いろいろなかたちで関与した計画になっています。東京都高齢者医療の複合施設の例ですが、敷地内に病院、特別養護老人ホーム、老人保健施設の3つの施設があります。私が計画したのは高齢者の病院と公園です。特にこの高齢者の病院は設備主導になりがちな従来の病院とは違い、患者さんのQOLを高める、安らぎや癒しの空間を建築としても、またその中で緑が必要なところをさまざまなものを含めて造っています。病院の外観ですが、外の緑の雰囲気、自然の息吹が中に入ってくるようなかたちです。特にガラスで外の緑と室内の緑が対立するようにありながらも、ここは鉄ですが、それも緑で薄く塗って、室内においても木質感をふんだんに使ってゆったりとした空間になっており、へたなホテルよりも質のいい環境です。

公園には、車椅子で来られる方が多いので、健常者の方が座っても一緒に共有できるスペースも造っています。車椅子が入っても、またお年寄りが急に具合が悪くなって横になることがあっても、それが可能な融通のきくものを計画していて、ここには立ち上がりか不自由な方のための手すりのようなデザインのものがあります。

次は癌研究会病院です。「光・風・緑・海」をテーマにした患者さんに優しい病院というものです。認知症のお年寄りたちが求めている景観と、また癌のようにストレス性の高い病気を持っている方と、同じ病院の庭でありながら少し内容を変えております。この建物の特徴は左右対称で、同じ形のスペースの庭が右と左にあります。中庭は非常に狭いのですが、広く見せるために手前の幅と奥の幅を少し変えて距離感を持たせています。室内にも植栽をしております。

左右の屋上庭園ですが、まずこの計画をするときにどういふことが考えられるのかを想像してみました。癌だということを宣告された場合、自分はこの癌を乗り越えて元気になろうと思う気持ち



水野 妙子 氏

と、これはまずいと思う2つの気持ちがあると思います。それがその日によってうつろうと思いましたが、広がりのある「光の庭」と、少しのんびりとできる「風の庭」という2つの庭を造りました。一方が芝生の広がりのある光の庭です。夜来ても寂しくないように葉っぱの白いものを植えました。

次に「風の庭」です。屋上庭園はいつもそよそよと風が吹いています。それを見るのも楽しいものですが、その風の吹き方が綺麗に見える植物とそうではないものがあります。特にススキ類ですが、これはオーナメンタルグラスといわれる部類のもので、自然の息吹が感じられるようなしつらえの植物を植えています。

最後はおもてなしの心を屋上庭園でということ、新宿伊勢丹のアイ・ガーデンは「生」ということになります。こちらは夏に大きな芝生の面積を取り、春にはいろいろな植物が組み込まれる空間、また秋は紅葉が楽しめるようなものに造っています。

植物は管理方法がとても重要ですが、できるだけ農薬を使わずに管理しています。発生してしまった場合には、部分的に代替農薬や農薬を使い分けます。

最後に明るい話題です。この芝生でお母さんが赤ちゃんの歩行訓練をすることがとても多いのです。おそらく都会のお子さんは、マンションのフローリングではからだに力が入らないのではないかと思います。広々として、また適当に芝生がチクチクして、そしてお日さまの下で歩行訓練をすることで、歩けるようになったお子さんも多いのではないかと思います。

植物を通じていろいろなかたちのコミュニケーション、どちらかという楽しい景観、またゆったりとした時間を過ごすということが今後重要になっていくと思っています。

## 「農業における障害者就労の取り組み」

埼玉福興株式会社代表取締役  
新井 利昌 氏

平成5年、両親の縫製業より事業転換し、金庫を渡されました。そして、一つの知的障がい者生活寮からスタートし、障害者と共に生活をし、共に働き、共に生き、そして障がいがあっても立派に社会の一員として活躍できるよう努力し、挑戦することにしました。

平成6年には、トラブルばかりの障害者の受入れ先がなく、障害者の働く場所がないという状況なので、工場を立ち上げました。

そして、平成8年、「家族という形」・「労働力の主力となって働く」をテーマに障害者がさまざまな形で社会的に自立できるような環境を創出し、障害者と共に人生を歩む環境とシステムを創造することを目的として法人化しました。現在では地域の高齢者、障害者、若者たち、いろんな世代がリンクし新たな形の農業生産組織をテーマに地域活性化に貢献することを目指しております。

我々は単なる障害者の福祉増進・その場だけの支援に終始することなく、福祉・人間の本質である喜びに満ちた幸せな生涯を送ることを目的と考え、障害者の一生涯の暮らしに考慮したトータル福祉で考え創造していこうと思っています。

私は、障害者とともに19年一緒に生きてきました。身内に障害者はいませんが、好きで障害者福祉をやっています。現在の障害者ですが、特に知的障害が主ですが最近では精神障害身体、触法、高次機能障害や身内に捨てられた中国人の障害者等さまざまで、2011年6月現在で、21歳～77歳までの年齢層の入寮者数が36名、逃亡者数1名、服役者数1名という状況です。過去60人以上の障害者と人生の一部をともにしましたが、世の中のどうにもならない障害者のケースがあり、山ほど格闘してきました。事例を挙げただけでも、アルコール中毒、覚せい剤、風俗、ヤクザ、借金とり、拉致、強姦、駆け落ち、銃刀法違反、サズとありとあらゆる事例がありましたが、知的障害者の場合は何でもあるという事が実感させられました。

平成17年に行政から、農地代が払えなくなったところを借りてくれと話が来たので、農地を借り、翌年には水耕栽培操業開始して、農業をやることになりました。町からは好意的に見られていますし、福祉であってもこのような寮生たちと一緒に稼いでいかなければならないのでやりがいがあります。

現在では、水耕栽培（水耕葉物）が600坪、野菜苗・花卉が400坪、葱・たまねぎが3ha、オリーブ2haで農作物を作っている状況です。

職場の配置についてですが、障害者の受け入れ



新井 利昌 氏

に当たっては原則として選別は行いません。試用期間にやってみせて、やらせてみせて判断する。そして、就業の意欲、独力で通勤できるかどうか、一定程度の協調性があり、複数人での同時並行作業に順応できることが重要であると思っています。

また、平成20年には、認定農業者となり平成21年には、就労支援事業所を立ち上げると共に、福祉推進事業としてソーシャルファームの推進に向けた実証モデル事業を実施しました。

ソーシャルファームは第3の雇用形態をつくりだすと思っています。その第3の分野で重要な3つの要素は、そこで働く人たち、そこで暮らす人たちの幸せ、人間の尊厳を大切にすること。そこで働く人たちも責任を持って積極的に参画をし、福祉の受け手であるというだけでなく、自ら責任を持って参画していく。これからの時代は環境が重要であり、環境を向上させながらやっていく3点が大切だと思っています。

新たな取り組みとしては、日本最北端のオリーブ園として世界進出したいと考えています。オリーブは温暖な気候で栽培され、日本では小豆島が有名ですが、小豆島から技術提供を受け、埼玉県熊谷市にオリーブ園を展開し、障害者、地域の高齢者、次世代の若者がリンクし、新しい形の農業生産工場を目指し、希望と誇りを持って就労できるような使命をおびた地域活性化に貢献したいと思っています。

夢は、オリーブ100万本を作り、障害者雇用・就労支援を行い、世界と手を繋ぐソーシャルファームとして、何世代も続く創造的なことをみんなと共にやりたいと思っています。



## 「 Bangladesh 農村地域における生活環境と貧困の改善」

日本下水文化研究会  
酒井 彰 氏

衛生というとトイレの普及を考える方が少なくありませんが、衛生の改善による人々の生活の変化、それを技術的な面も含めシステムとして捉える必要があります。

具体的にはエコロジカルサニテーション、略してエコサンと呼んでいます。そこに分類される形態のトイレを普及してきました。国別のサニテーションの普及率ですが、驚いたことに、Bangladesh はいままで最低レベルランクだったのですが、2010年の結果では、だいぶ変わっていました。健康リスクの軽減ですが、これは衛生の基本的な目標になります。Bangladesh では毎年のように洪水やサイクロンの被害に遭います。そういった被害に遭ったときに、いま使われているトイレの多くは使えない状況になりますし、場合によっては井戸も使えなくなり、水で生活できないということで病気が増えるという事態になります。

また、例えトイレがあっても、その後の尿尿の始末の仕様によっては汚染を引き起こすこともあります。衛生管理がターゲットとしている尿尿というのは資源価値を持っていて、日本あるいは東アジアの国々ではかつてはそれを利用してきました。それがなかなか使われていない、あるいは使うことに気付いていない、あるいはそれがタブーになっている国々も少なくありません。エネルギー成分として活用が可能なものでありながら、処分の対象にしかなっていないということです。

そこで、我々が導入したトイレは、尿と便を分け、尿はそのまま液体肥料として薄めて使い、便のほうは半年から1年便槽に貯留して、便槽が2つありますからそれを交互に使いながら乾燥していきます。このようなトイレを400ぐらいつくりました。我々はトイレの数を増やそうとしているのではなく、いかに現地の人々が自立的につくれる、あるいは普及・拡大できるようになるかということ念頭に置いて活動の中心をそちらにシフトしていきたいと思っています。

もう1つ衛生を取り巻く状況として、世界レベルで見ると水資源不足という問題があります。水洗トイレのために水を確保することも難しいところも少なくありません。また、適切に尿尿を管理しなければ増大する人口により水質汚染は必至の状況だということがいえます。それから肥料の危機ということで、窒素やリンの確保が近い将来困難になることが予想されます。リンは枯渇資源で生産できる国が限られており、Bangladesh も



酒井 彰 氏

そうですが、被覆肥料というのはメタンや天然ガスからつくっています。また、長期の化学肥料の使用による土壌の劣化も進んでいるという状況も見られており、Bangladesh の多くの農地では有機成分の著しい減少が問題になっています。こういったことも衛生を考える上でマクロな視点として考えなければいけないことだと思います。

また、外部へのインパクトを軽減するためにバイオガス・システムというものを技術的に導入してはどうかというふうに考えています。バイオガスというのは、昔の日本にあった消化タンクですが、それによって有機物を分解することでインパクトは減るし、そのガスを燃料として利用することで、インセンティブの付与になります。

また、昔江戸であったように都市の尿尿を農村で使うという形も考えられ、オンサイトに近いところで有機肥料をつくり、農村還元するということができ、持続可能な農業にも寄与できると思っています。既存のバイオガスプラントでの調査をしたり、実際にコンポストと尿を別々にやったとき、それから一緒にやったときとでトマトの収穫量がどう違うかをやってみました。歴然とした違いが出ています。やはり農地の有機成分が少ないことで、コンポストと尿と一緒にやったほうが、十分な効果が発揮されています。

プロジェクトを実際に展開し、意識向上、コミュニティの参加によって、現地の人たちがそれに合意するとともに、特に出てきたバイオガスをどのように利用するか、そういうことを現地の人たちで考えることに時間をかけてやっていけたらと思っています。

また、Bangladesh の子どもたちのためにも活動を続けたいと思います。いつまでも我々が音頭をとるのではなく、現地の人たちが自立してもらいたいと思いますが、そういう基礎ができないかなと思っています。

## 「チョコレートから始まる西アフリカの貧困と環境改善」

一般社団法人チョコレボ・インターナショナル代表理事  
星野 智子 氏

先ずは、チョコレボの取り組みについてですが、チョコレボというのは、チョコレート・レボリューション、チョコレートの革命を意味しています。

チョコレートの原料はカカオで、原産地は南北緯度20度以内にある熱帯雨林に生息する植物の実から取れる種を利用したものです。チョコレートというのは途中で発酵のプロセスがあり、途中でこのカカオの実ごと種を発酵させ、乾燥させます。その後は、大きな麻袋に入れて運び出しますが、ここまでがカカオの生育地で行っているものです。この方法は西アフリカのガーナ特有の方法です。

このようなカカオですが、あまり知られておらず、このチョコレート原料であるカカオをつくっている人がみんなハッピーになれるように、そしてチョコレートをつくる人たち、売る人、運ぶ人皆さんがいい仕事をしていただけるように、そしてチョコを楽しむ私たち一般消費者が幸せになれるようにという変化をつくるキャンペーンとして、2006年より活動しているのがチョコレボの活動です。

フィールドとしているガーナは、もともと植民地で奴隷貿易の歴史を持っていて、カカオなどの産出物が輸出され、奴隷とともにその場所で人々が労働者として使われ、逆に武器がヨーロッパからもたらされました。現状はサハラ以南で森林も豊富にあるべきところですが、本来の原生林は既に90%以上が失われており、ここ20～30年の間には33%の森林を喪失しているという状況で、生物多様性も失われつつあります。

2007年には、きちんと西アフリカの現場を知っておくべきだと思い、ガーナを実際に訪問しました。そのときに、それまではアフリカで子どもが奴隷になっているという話でしたが、実際に現地に行ってみると、子供たちが生産者のところで働いているというのはあまりなく、森林を守りながら、オーガニックに近い状態で、農薬をなるべく使わないでやっている生産者の人たちが、わずかではありますが実際に取り組みを始めていた状態でした。その時から、ぜひこういう生産者の人たちを応援するためのチョコレートをつくらうということを活動の中心に据えております。

代表的な活動は、百貨店のような対面式でお客さまとお話ができるところから始め、コンビニでもいちばん売れている商品の原料を変えてみてはどうでしょうかという話をさせていただき、トライアル企画商品のようなことをやらせていただ



星野 智子 氏

ています。また、一般の洋菓子屋さん限定商品のチョコレートケーキに原料として使って頂くよう働きかけたり、大学などでもさまざまなイベントを行いました。

現地側のガーナでは、チームチョコレボと正式にNGOに登録しており、政府に関しても決して悲観的ではなく、むしろ一部の役人たちにきちんと広め、ガーナとしての環境の姿勢を出していきたいということで、公式プロジェクトとして推薦していただいています。

生産者の人たちはといいますと、非常に好意的に思っています。農薬のスプレーを撒いてしまえば簡単のところを、無農薬では面倒な方法で虫が出たら虫を取り、病気が出そうになったら、先にそれを取っていくという面倒な作業ですが、それを楽しみに参加してやってくださっています。

そのような状況で、貧困から改善されているかということ、決してそうではありません。しかし、かなりいいきざしが見えてきています。例えば、農薬を使ったプランテーションではほかの植物がうまく育たず、安全な食物にはなりません。無農薬だと芋やトウモロコシ、あるいはパイナップル、パパイヤ、マンゴー、ミカンなどいろいろなものが育ちます。これは安全な食物として食べてもらうことができ、その地域の環境を破壊せずに多様性も保ちながら育てていくという、その両方が実際に行われています。あと4～5年たつと実がなりますが、それで得られる現金収入は、子どもたちの教育に使うことができます。

最後になりますが、この森林保護活動の中で、安全な食物を食べられるものという構造が非常に重要かと思えます。これからも多様な植物と一緒にどのように環境を保護していくか、植林を通じてできることを、チョコレートという身近なものを通じて皆さんに知っていただくということを今後も続けていきたいと思っています。



環境福祉学会

## 《第8回年次大会》一般研究発表予稿提出のご案内

1. A4サイズでお願いします。
2. 上下左右に30mmの余白を設けて下さい。
3. 第1行目には、和文タイトル（ゴシック体）を書いて下さい。
4. 和文タイトルが必要なならば第2行目に書いて下さい。
5. 第4行目には英文主タイトルを書いて下さい。
6. 英文サブタイトルが必要なならば、第5行目に書いて下さい。
7. 発表者名（所属）を7,8行目に書いて下さい。発表者は氏名の前に※を付けて下さい。
8. 該当するキーワードを3つ選び、日本語（英語）で10,11行目に書いて下さい。
9. キーワードのあと、1行あけて本文（明朝体）を書いて下さい。
10. 1ページあたり50行、1行あたりの文字数は40字で作成して下さい。
11. A4の2ページで作成して下さい。図表、写真についても本文の枠内で収めてください。
12. 写真等は、剥がれないように糊で、真ん中一箇所のみで添付して下さい。
13. できるだけ、入力データをメディア（FDD、CD-R等）に保存して下さい。
14. 抄録原稿原本とデータメディア（FDD、CD-R等）を厚紙で挟んで下さい。
15. 平成24年8月末日の予定です。

※送り先及び正式な締切日につきましては、後日改めてご案内致します。

### ■ 環境福祉学会組織及び役員一覧

会 長	江草安彦	社会福祉法人旭川荘名誉理事長／川崎医療福祉大学名誉学長
副 会 長	伊藤達雄	名古屋産業大学名誉学長／鈴鹿医療科学大学客員教授
	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長／元環境事務次官
	堀越哲二	学校法人創造学園理事長
理 事	泉谷直木	アサヒグループホールディングス株式会社代表取締役社長
	植田和弘	京都大学大学院経済学研究科教授
	寺田清美	東京成徳短期大学教授
	土井康晴	生活福祉研究機構専務理事
	長田逸平	クライシスマネジメント協議会理事長
	波田幸夫	環境新聞社代表取締役社長
	花澤義和	NPO 法人エコリンク21環境国際総合機構理事長
	藤田八暉	久留米大学経済社会研究所所長
	松寿 庶	社会福祉法人全国社会福祉協議会常務理事
	安川 緑	金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域准教授
監 事	伊澤敏彦	NPO 法人環境資源開発研究所所長
	永井伸一	獨協医科大学名誉教授
事務局長	小峰且也	環境新聞社専務取締役
事務局	酒井 剛	環境新聞社事業部部长
	王 豊	創造学園大学東京事務所長

### 事務局 だより

東日本大震災から1年以上経過したが、風評被害などの影響もあり、災害廃棄物処理の進捗率は1割にも満たない状況にある。特に津波で激甚な被害を受けた地域ではまだにがれきが山積み、復興の妨げとなっており、全国の自治体の協力で迅速ながれき処理が行なわれることを願っている。

また、福島原発事故に伴う放射性物質の拡散による環境汚染は、新たな公害問題として、産官学の総力を結集して除染対策への取り組みが必要である。

▼当学会の事務局を努めている環境新聞社では、そのような状況を鑑み、今年の9月に国内外の除染やそれに伴う廃棄物処理などの技術を一堂に紹介する「環境放射能除染・廃棄物処理国際展」と国際フォーラムを環境省等の後援のもと東京・科学技術館で開催する。福島の再生を目指す除染対策技術の結集と、世界に向けて日本の静脈技術の優秀さをアピールし、復興の一助となるべく実施するので関心のある方はぜひご来場下さい。